

平成17年度技術士第一次試験合格者歓迎会(東京会場)

平成17年度技術士第一次試験の合格者数は約1万人であり、昨年に比べて約半分となった。今回は、合格者だけでなくJABEE修了生も対象にして今後の修習にあたっての研修を行い、進路のガイダンスに資するための技術士第一次試験合格者歓迎会(東京会場、13:00~19:30)が平成18年2月11日(土)虎ノ門パストラルにて開催された。第1部のオリエンテーション及び第2部のパネルディスカッション(13:00~17:00)に第一次試験合格者約130名が参集し、交流会(17:00~19:30)では部会等関係者70名の参加を得て、先輩技術士との交流が活発に行われた。なお、JABEE修了生の参加は残念ながら無かった。

【開会挨拶】	修習技術者支援実行委員会 石川 秀勇
第一部オリエンテーションでは如何に修習をするかを学び、そして第二部交流会では人的ネットワークの構築に努めていただきたい。ロビーにて技術士会の活動を紹介するパネル展示を行っているので是非ご覧になってもらいたい。	
1. 【講演】技術士の役割	(社)日本技術士会会長 都丸 徳治
【要旨】 今年度の第一次試験は難しかったが、あくまでも第一次試験は第二次試験受験の前提である。 技術士は、名称資格であって職業資格ではないが、少子高齢化時代を迎え科学技術振興の必要性が認識されている中で、重要な地位を占めている。そして、技術士は法的に義務・責務を負っており、プロフェッションとしても位置付けられている。また、多くの分野の技術者集団である技術士会は、このプロフェッションを育てる集団としても必要な存在となっている。 国の第3次科学技術基本計画では人に重点が置かれており、そのうち「社会のニーズに応える人材の育成」は、正に技術士が担っている事柄である。これからは、技術者が公平な立場で意見を述べていくことが必要であり、技術士が果たす役割には大きなものがある。そのためにも、みなさんには技術士を目指してもらいたい。	
2. 【講演】技術士を目指す方々へ	(社)日本技術士会専務理事 竹下 功
【要旨】 技術士は国家資格であり、登録が必要となっている。名称を用いて業務が出来る名称資格であり、一部は業務独占になっているが、基本的には業務独占の資格ではない。技術士資格の効用として次の3点がある。 <ul style="list-style-type: none">・ 技術士業務ができる。(事務所を開設することが可能である。)・ 技術的能力が国から認められる。・ 国際的に通用する。 また、他の資格取得や公的活用に特典があり、現在、公的活用の拡大を図っている途上である。 技術士会は昭和34年に設立された公益法人で、会員数約11,000人で7つの常設委員会、8つの実行・調査委員会、5つの特別委員会等があるが、活動の基本は支部・部会活動となっている。 平成19年度から第二次試験方法の変更が行われる。大きな変更点は、選択科目 -1 がなくなり筆記試験合格者に対して口頭試験の前に体験論文を提出するようになることである。頑張って、二次試験に挑戦をして欲しい。	
3. 【講演】修習経路と獲得すべき能力	修習技術者支援実行委員会委員長 坂本 恵一
【要旨】 JABEE修了生の増加によって、今まで以上に修習ということが重要になってきている。第一次試験の後が本番であり、第二次試験を受けるまでが修習期間である。第二次試験受験には、次の3つの経路がある。 <ul style="list-style-type: none">・ 経路1 技術士補として登録、同部門技術士のもとで4年の修習経験。・ 経路2 優れた指導技術者のもとで、4年間の修習を行う。・ 経路3 7年間の実務経験。(修習なしで第二次試験を受ける。)	

技術士はプロフェッショナルエンジニアとして崇高な使命を持っており、3つの能力「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」を求められている。この3つの能力は、修習技術者がその期間に習得する必要がある能力でもある。修習技術者はIPDを実践する必要がある、学会などのCPD研修は修習技術者にとってIPDとなるものである。修習技術者支援実行委員会はIPDとして、修習技術者向けに年間を通じて研修行事を開催しており、これに参加することが修習に役立つ。そして、皆さんにはスペシャルではなくゼネラリストになっていただきたいと考えている。なお修習活動全般について解説したガイドブックを販売しているので、購入の上直ちに修習を開始していただきたい。

<p>4. 【パネルディスカッション】二次試験合格への挑戦</p>	<p>コーディネータ 青年技術士交流実行委員会 副委員長 久保 康弘（生物工学部門）</p> <p>パネリスト</p> <p>1. 技術士補登録4年 青木 卓也 技術士（生物工学部門）</p> <p>2. 実務経験7年 新井 靖典 技術士（建設部門）</p> <p>3. JABEE 課程修了生 土井 雅晴 修習技術者（建設部門）</p>
-----------------------------------	--

パネル討論における発表要旨

○ コーディネータから
 技術士になる経路は3つあり、JABEE 修了生は技術士補の登録が出来る。「経路2」はほとんどいなくて「経路3」で受験可能になれば実務経験で受験をしている。今回のパネリストは「経路1」「経路3」での技術士とJABEE 修了生の修習技術者である。

【テーマ：技術士補登録4年(大学院2年を含む)での合格体験】青木 卓也 技術士（生物工学部門）

- モチベーションの維持と幅広い知識を身に付けたいとの想い、第一次試験を2部門受験した。
- 入社後、第1次・2次試験を受験し続けている。
- 受験の動機は、最高の資格であって管理技術者になるために必要であり、社内的には管理職になるにも必要である。
- 第二次試験への取り組みとして、次のようなことを行った。
 1. 技術士取得者に話をよく聞き、HP や掲示板を徹底的にチェックした。
 2. 自己のバックグラウンドから過去の試験問題を早い段階で確認をし、どの部門で受験するのがよいかを調べた。
 3. 受験部門の技術士から話を聞き、技術士になった自分のイメージをするようにした。
 4. 願書（経歴）に関して不明な点は、技術士会に確認するようにした。
- 「何が何でも受かる」という意思を持ち続けることが重要である。

【テーマ：実務経験7年での合格体験】新井 靖典 技術士（建設部門）

- 建設会社のため、技術士制度は知ってはいたが10年か15年経ってから取得すればと考えていたが、新しい部署の上司が技術士であったことが受験の動機となった。
- 「スキルのステップアップ」「業務経歴の発掘と整理」について話をしたい。
- スキルアップとは「顧客に対して提供できる技能や能力を向上させること」であり、OJTが有効である。
- 3つのスキル（専門技術能力・業務遂行能力・行動原則）を意識して業務を行うことが重要であり、身に付けたスキルを表現するために論文として発表することが必要である。
- 業務を発掘方法として、苦労した業務の問題点、解決策を整理することが有効である。
- 自分自身をモチベーションが維持できる環境に置くことが必要である。

【テーマ：JABEE 課程修了生から技術士を目指して】土井 雅晴 修習技術者（建設部門）

- JABEE とは学生からすると、教育の質を維持してアドバンテージを与えるものであると考えられる。
- 3年生から JABEE 対応カリキュラムとなって、特に成績判定の基準が明確になったことが大きな変化であった。
- 第一次試験合格者は個人であるが、JABEE 認定を受けると全員が全員に対して責任を負っており、この点と同じ修習技術者でも大きな違いである。
- 技術士はあくまでも通過点であると考えており、OJT が試験対策の全てに通じるものである。
- 「相手とは違う視点を持つ能力」を3つのスキル以外に、身に付けていきたいと考えている。

パネリストからの提言

【テーマ：モチベーションの維持の仕方】

- 青木氏；学び続ける習慣が大切である。具体的には、私は入社以来技術士試験（一次、二次）を受け続けている。他部門を受験することで、違う視点を持ち続けるようにしたい。
- 新井氏；上司からのプレッシャーが一番であった。それと技術士会の活動に参加して、仲間との交流が刺激になった。
- 土井氏；技術では経験が大切ではないかと思う。

【テーマ：行動原則の学習方法】

- 土井氏；建設コンサルタントでは工期が大切であるが、「何のために」「なぜ造るのか」「造ればどうなるのか」を考えることが必要である。これが倫理に繋がると考える。
- 新井氏；顧客のニーズに対して、代案を提案することで倫理に反しないようにできるのではないかと。
- 青木氏；当社の社訓「技術を軸に誠意を持ってことにあたり社会に貢献する」を意識して業務を行うことが一番であると考えている。

質疑応答

【会場 試験に不合格であったときにどのようにしてモチベーションを立て直したか】

- 新井氏；技術がレベルに達していなかったのだと納得した。達観していたので、落ち込むことはなかった。
- 青木氏；筆記試験に不合格の時は沈み込んだが、時間が解決してくれた。

【パネリスト この歓迎会に何を求めて参加したのか。目的は？】

- 会場（学部 2 年生）；技術者がどのような活動をしているのか、そして技術者の方と交流をしたいと思い参加した。
- 会場；技術士を取得して、どのような点が良かったか聞きたかった。
- 久保氏；独立するための、活動の基盤が得られた。
- 青木氏；責任ある仕事ができ、顧客の信頼が増した。将来の独立の際のバックグラウンドができた。

【交流会】

修習技術者支援実行委員会奥田副委員長から開会の挨拶があった後、(社)日本技術士会永田副会長の乾杯のもと先輩技術士との交流の輪が会場内に広がり、プロジェクト等の紹介や懇談を通じて活発な交流が行われた。

以上

